

開元通宝 (621年初鑄 唐銭)

AMAZING TOYAMA

ざくざく・ドキドキ・

せん  
まいぞう銭



慶元通宝 (1195年初鑄 南宋銭)

皇宋通宝 (1038年初鑄 北宋銭)

埋蔵銭 (まいぞうせん)とは？

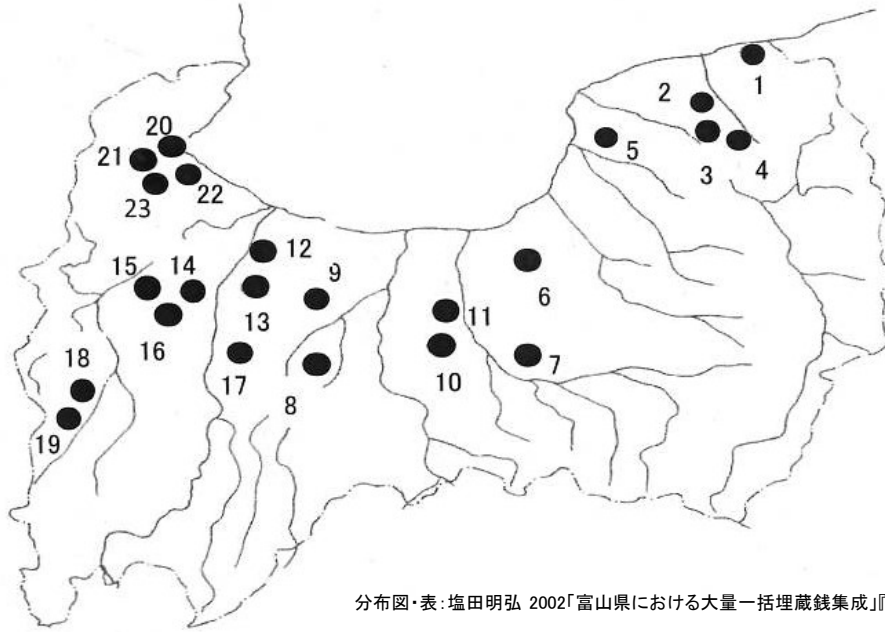
富山県内の中世遺跡から、<sup>せんか</sup>銭貨(殆どが<sup>とらいせん</sup>渡来銭と呼ばれる輸入された中国銭)が<sup>すずやき</sup>珠洲焼や<sup>かめつぼ</sup>越前焼などの甕や壺から数百枚～数万枚まとまって出土することがまれにあります。これらを「埋蔵銭」や「一括出土銭」などと呼びます。

銭貨(銅銭)をまとめて埋めた理由として、<sup>ちょぞう</sup>貯蔵や<sup>ちょちく</sup>貯蓄(備蓄)、<sup>びちく</sup>戦争や災害などからの<sup>きんきゆうひなん</sup>緊急避難、<sup>じゆじゆつ</sup>呪術(まじない)など様々な説があります。呪術的な埋蔵銭(埋納銭とも言う)としては、お墓に埋める<sup>ふくそうせん</sup>「副葬銭(六道銭)」や山岳信仰に捧げる<sup>ほうさいせん</sup>「奉養銭」、土地の開発の際や城館などの境界で行うおまつり・井戸の<sup>はいき</sup>廃棄に伴う<sup>さいしせん</sup>「祭祀銭」などがあります。

中には、埋めたのに忘れられた埋蔵銭や誰が何のために埋めたか分からない「埋蔵銭」もあります。<sup>かへい</sup>貨幣(お金)としての経済的な側面とは異なる使い方をされた銭貨に注目してみました。

# 富山県における大量一括埋蔵銭の出土状況

富山県内での埋蔵銭の出土は、鎌倉時代に現われ、室町時代に多くみられます。埋蔵銭は、遺跡発掘調査中に見つかる場合と、ほ場整備工事や道路工事などの最中に不時発見される場合もあります。ここでは、県内で数百枚以上のまとまった単位でみつかったものを集めてみました。



今回の展示では、  
 8 八尾町高善寺  
 9 各願寺前遺跡  
 の一括埋蔵銭と  
 10 上布目遺跡  
 の平成13年発掘  
 調査出土銭を  
 紹介しています。

分布図・表：塩田明弘 2002「富山県における大量一括埋蔵銭集成」『出土銭貨』第17号出土銭貨研究会、  
 水見市教育委員会 2004『水見市埋蔵文化財分布調査報告Ⅳ』宮田進一報文などを参照・一部加筆改変

番号	遺跡名等	所在地	遺跡の性格	立地	時期	銭種	枚数	最古銭	最新銭	収納容器	出土数量単位	備考	出典等
1	明石遺跡	朝日町明石		斜面		56	6,453	開元通寶	宣徳通寶	コモ(ムシロ)か	5	大正12年畠作業中出土	朝日町宮崎自然博物館・朝日町郷土の遺跡を語る会1980『越中宮崎城下出土銭考』
2	天戸遺跡	朝日町三枚橋字天戸		平地			約1,100	開元通寶	永楽通寶	不明	15		
3	舟見小柴遺跡	入善町舟見		平地	15後半～16世紀初頭	37	3,371	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼・壺	8	昭和47年ほ場整備工事中出土	入善町教育委員会1973「舟見発掘の古銭整理報告書」
4	法福寺前遺跡	黒部市宇奈月町明日	寺院関連	台地	16世紀初頭	53	12,534	開元通寶	宣徳通寶	越前焼・壺	2	大正2年畠作業中出土	『追録 宇奈月町史歴史編』1989、富山考古学会再調査
5	植木	黒部市植木		平地			約1,000			越前焼・壺	17	大正13年	黒部市教育委員会より教示
6	江上B遺跡	上市町江上	集落	平地	14世紀前半	37	559	開元通寶	嘉定通寶	珠洲焼・壺	19	SK106から37種559枚、SK088から27枚、SD014から3枚、SD066から1枚、K17Y43区から1枚(寛永通宝)、出土区不明6枚(1枚寛永通宝)	上市町教育委員会1982「北陸自動車道遺跡調査報告一上市町土器・石器編一」
7	大坊谷	立山町上末	寺院敷地内	台地			400以上			不明	20		『立山町史』上巻
8	高善寺	富山市八尾町高善寺		平地	14世紀か	43	11,884	開元通寶	咸淳元寶	珠洲焼・壺	3	昭和59年ほ場整備工事中出土、令和4年発見者家族から市に寄附	
9	各願寺前遺跡	富山市婦中町長沢	寺院関連	台地	15世紀か	52	2,390	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼の壺か	10	平成7年側溝工事中、97枚で1纏	
10	上布目遺跡	富山市上布目	集落	平地		37	約3,200	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼・壺	9	600枚撰出し調査、その他10kg、昭和47年工事中出土	富山県埋文センター保管
11	太田中田Ⅱ遺跡	富山市太田中区		平地			約300			不明	23	昭和59年道路工事中に出土	
12	八塚C遺跡	射水市大島町八塚	寺院	平地		23以上	約1,000	開元通寶	寛永通寶(永楽通寶)	不明	16		
13	布目沢Ⅱ遺跡	射水市大門町布目沢字畑田		平地		69	22,938	貨泉	宣徳通寶(新寛永)	越前焼・壺	1	昭和39年ほ場整備工事中出土、100枚の纏が大半、100枚続きの300枚纏銭あり	大門文化会1964『布目沢出土銭誌』
14	古戸出	高岡市古戸出		平地		48	6,072	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼・壺	6	昭和48年工事中出土	富山県埋文センター保管
15	舞谷前田島遺跡	高岡市福岡町	山麓の縁辺部		15世紀第2四半期～16世紀	57	5,500	開元通寶	宣徳通寶	木箱	7	平成16年「こぶし荘」直下の斜面の地すべり対策工事中に発見、纏銭の状態	富山県高岡市福岡町埋蔵文化財分布調査報告Ⅳ
16	鷹栖神吾遺跡	砺波市鷹栖字神吾		平地			約2,000	開元通寶	永楽通寶	不明	11		
17	下中条遺跡	砺波市下中条		平地		36	359			不明	22		
18	香城寺遺跡	南砺市福光町香城寺	寺院敷地内	山麓	15後半～16世紀初頭	48	1,388	開元通寶	宣徳通寶	不明	14	明治初め頃耕作中出土	富山県福光町医王山文化財調査委員会1993『医王は語る』
19	矢倉畑遺跡	南砺市福光町祖谷	八幡社前	平地			600			茶色の壺	18		
20	朝日十字路遺跡	氷見市朝日丘		平地	15後半～16世紀初頭	56	6,495	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼・壺	4	昭和57年水道工事中出土	氷見市史編さん委員会2002『氷見市史考古』
21	中尾ガメ山遺跡	氷見市中尾字茅戸		山裾	13世紀後半か	41	1,805	開元通寶	咸淳元寶	不明	12	昭和50年ため池工事中、30枚単位で結ぶ	湊 辰・児島清文1983「中尾古銭埋置遺跡」『氷見春秋』第2号
22	小竹遺跡	氷見市小竹	山城	標高240m		34	389	開元通寶	永楽通寶	不明	21	纏銭か、ベトナムの治平通寶を含む、小竹山城のC郭の直下	氷見高校歴史クラブ1951「昭和25年度研究調査報告集」
23	西朴木フルヤチ遺跡	氷見市西朴木	不明	丘陵先端		51	1,470	開元通寶	宣徳通寶	不明	13	昭和25年頃不時発見	氷見市埋蔵文化財分布調査報告(丘陵地区)Ⅳ2004年3月

## 八尾町高善寺地内【昭和59(1984)年出土】

昭和59年5月に八尾町高善寺地内のほ場整備の工事中、珠洲焼の壺(4基とされる)に銭貨が納められた状態でみつかりました。壺は石川県の能登半島の先端、珠洲市周辺で室町時代に製作されたものです。

令和4年4月に壺1基と銭貨を発見者のご家族から市に寄附をうけました。銭貨の総数は11,884枚です。現在銭種(〇〇通宝など)の判読作業を進めていますが、現時点で判読することができたのは44種類、2,627枚です。実際、壺に何枚銭貨が入るか実験したところ、7,030枚入ることがわかりました。

最古銭は「開元通宝」(初鑄621年)、最新銭は「永樂通宝」(初鑄1408年)で、埋蔵時期は15世紀以降とみられます。最も数が多かったのは「開元通宝」で376枚(14.3%)、次に「元豊通宝」(初鑄1078年)が311枚(11.8%)、「皇宋通宝」(初鑄1038年)は255枚(9.7%)を数えます。中国の王朝別でみると、北宋銭が82.6%と最も多く、次に唐銭で15.0%、南宋銭が1.9%、金銭は0.15%、また明銭も0.19%と続きます。

当初は地方豪族が備蓄を目的として埋蔵したと考えられていましたが、その後県内の各地で大量の出土銭がみつき、その調査をもとにすると地鎮目的で埋納されたのではという説も出てきました。出土場所の近隣には寺院に安置されていたとされる供養塔の一部が見つかり、それとの関係も推測されます。



出土した状態(昭和59年撮影)



珠洲焼の壺(残存高35cm)

## 各願寺前遺跡【平成7(1995)年出土】

婦中町長沢地内の真言宗高野山派の各願寺に向かう参道(農道)舗装改良工事が行われた際に、側溝部分から大量の銭貨が出土しました。全体の約1/3が孔に藁紐を通して結び目をつくった緡銭(一緡97枚で百文とみなす)の状態でした。出土地点からは珠洲焼の壺破片5点と播鉢(蓋として利用か)破片1点が採集されました。銭貨の総数は3,266枚で、その内、判読することができたのは51種類、3,215枚です。最古銭は「開元通宝」、最新銭は「宣徳通宝」(初鑄1433年)で、埋蔵時期は15世紀第2四半期とみられています。最も多かったのは「皇宋通宝」(初鑄1038年)で364枚(11.2%)、次に「元豊通宝」(初鑄1078年)が327枚(10.0%)を数えます。中国の王朝別でみると、北宋銭が76.9%と最も多く、次に明銭で9.9%です。

これらの銭貨が現参道の側溝部分からの出土で、当時の参道の位置と変わらなければ、銭貨は側溝中に意図的に埋められた可能性があります。また、周辺には14世紀から16世紀の遺構・遺物が確認されています。銭貨の近くからは銅製仏具も出土しており、地鎮など寺院に関連した行事に伴い埋納されたとみられます。



出土した銭貨の状態



塊をほぐした状態(左の写真とは別もの)

文献：大野英子 2015  
「富山市各願寺前遺跡出土の一括出土銭について」『富山市考古資料館紀要』第34号

## 【昭和47(1972)年出土】

ほ場整備の工事中に、珠洲焼の甕に納められた銭貨がみつかりました。総数は約 3,200 枚で、最古銭は「開元通宝」(初鑄 621 年)、最新銭は「永楽通宝」(初鑄 1408 年)で、埋蔵時期は 15 世紀以降とみられます。

上布目を含む熊野川右岸の平野部は、鎌倉時代以降に莊園(太田保)が成立し、莊園を管理する莊官などが館を構えていました。周辺には経塚(江本経塚・塚根経塚)や墓地もみられ、寺院との関係も推測されます。

## 【平成13(2001)年発掘調査】 文献:富山市教育委員会 2002『富山市上布目遺跡発掘調査報告書』

土砂採取工事に伴う調査で、墓穴とみられる土坑などから計 46 枚の銅銭が出土しました。最古銭は「開元通宝」、最新銭は「元豊通宝」(初鑄 1078 年)です。土坑の側には、大型掘立柱建物(馬小屋を伴う5間×4間以上の建物と、西面に庇を持つ4間以上×4間以上の建物、いずれも総柱建物)が重複して築かれています。これらの遺構の時期は12世紀中頃～13世紀後半とみられています。

鎌倉時代以降、この地域一帯は大田氏や蜷川氏が支配する太田保に含まれ、室町時代には管領細川氏が支配していました。銭貨が出土した土坑からは焼骨や炭、焼土、礫なども出土し、銭貨や礫は多くが焼けていました。この地域を支配した有力者が亡くなった際、その副葬品として銭貨が埋納されたことが推測されます。



平成 13 年度調査区全景



銅銭 25 点が出土した土坑

## コラム (何のため?こんな銭貨の使い方)

江戸時代の瓦や陶器(越中瀬戸焼)に「寛永通宝」を押し当てた痕が残るものが、東京と富山で出土しました。

瓦の狭端面には4つの銭の痕があります。陶器の底部外面には4つ、欠けた部分を復元すると6つの銭の痕となります。陶器の方は、「六道銭」あるいは「梅鉢文」を意識したのでしょうか?

瓦・陶器いずれも表からは見えない場所に押し当てられており、どのような目的で製作されたのか皆さんも想像してみてください。



左: 東京大学本郷構内遺跡出土

(東京大学埋蔵文化財調査室所蔵)

右: 富山城下町遺跡主要部出土